

# パレスチナ・クロニクル・ニュース：「地獄の味を思い知らせる」：イラン、米国の新たな空爆を受け、米軍基地8カ所を攻撃したと発表

パレスチナ・クロニクル・スタッフ著、2026年6月28日、協浜義明訳 \*脚注は訳注

イランは、ホルムズ海峡航行の取り決めに違反した船舶へのイラン軍の行動に対する米軍の新たな攻撃を受けて、米軍施設8か所にミサイルとドローン攻撃を行ったと発表し、今後の米軍の停戦違反行為は、外交交渉を破綻することになると警告した。

## 主な動き

\*イランは、クウェートとバーレーンにある米軍施設を弾道ミサイルとドローンで攻撃したと発表した。この作戦は、米軍がイラン沿岸軍事インフラを攻撃したことの報復として実施された。イラン政府は、米国が「イスラマバード覚書」に違反したと言い、さらにイランを攻撃すればすべての外交的手順を停止すると警告した。イラン軍当局者は、攻撃が続けば地域の米軍基地が「地獄を見ることになる」と警告した。

\*イランは28日早朝、新たな米軍の攻撃に対する対応を激化させた。米軍のイラン南部への空爆への報復として、クウェートとバーレーンにある米軍施設8カ所を標的にしてミサイルとドローンの連携作戦を開始したと発表した。

\*今回の攻撃の応酬は、敵対行為の終結と恒久的な停戦合意に向けた交渉開始を謳った覚書に双方が署名して以来、テヘランとワシントンの間での最も重大な軍事衝突の一つである。イランは現在、米国の軍事行動の継続は覚書と国際法に直接違反すると主張し、攻撃がこれ以上続けば、外交プロセスが完全に頓挫する可能性があるとして警告した。

## 米軍基地への軍事行動

28日夜明けにIRGC（イスラム革命防衛隊）は声明を発表し、IRGCの海軍と航空宇宙部隊が午前2時から3時にかけて共同作戦を実施したと述べた。声明によれば、弾道ミサイルとドローンが、クウェートのアリ・アッサレム空軍基地やバーレーンのミナ・サルマンにある米海軍第5艦隊司令部など、米軍の収容施設8カ所を打撃した。IRGCは標的にした施設は破壊されたと主張し、この作戦を「最近の米国の侵略行為への断固たる対応」と表現した。声明はアリ・アッサムとミナ・サルマン以外の標的については特定していない。米当局からの即時の確認もない。

## イラン政府、米国は覚書違反した

IRGCは、イスラエルがレバノンで停戦違反したことに続いて、その数時間後に米国は「イスラマバード覚書」に基づく約束に違反したと、米政府を非難した。声明によると、イランがホルムズ海峡で船舶を遮断攻撃をしたことを口実に、イラン沿岸の5つの拠点に攻撃した。IRGCは、イスラマバード覚書の第5条に基づき、ホルムズ海峡航行を規制する責任がイラン・イスラム共和国にあると主張し、今後もこの取り決めに違反する船舶に厳しい措置を講じると警告した。また声明は、将来のさらなる米国の攻撃—たとえ、昨夜のように二次的標的を対象にした攻撃でも—には「壊滅的な報復」で応じると警告した。

声明は最後に、いかなる形の停戦違反も覚書第1条の違反となり、合意で確立された「すべての手順の完全停止を招くことになる」という警告で締めくくっている。

## 「米軍基地は地獄を見るだろう」

IRGC海軍は、地域に展開する米軍に対して追加警告を発した。IRGC海軍は、「シラクに対する米軍の無差別銃撃は、イラン・イスラム共和国がホルムズ海峡を支配しているという米軍の主張の解決にならない」と述べた。そして、イランの違反船舶に対する行動は、この戦略的水路を安全に航行できる認可ルートを他の船舶に再認識させるためだったと付言した。声明は湾岸地域の米軍プレゼンスに言及し、「地域の米軍基地に関しては話は別だ。それらは近い将来地獄を見るだろう」と警告した。

## 米国の新たな攻撃

イラン声明の数時間前、米中央軍（CENTCOM）はイランに対する新たな空爆を行った。米軍によると、米軍機はイランの軍事監視インフラ、通信システム、防空システム陣地、ドローン保管施設、機雷敷設能力を標的にした。米国は、イランがホルムズ海峡通過する船舶を攻撃することへの対応として、空爆を実施したと発表した。イランの国営テレビは、シラクのタヘルイ近郊やケシュム島のマサン村周辺の被爆を報じ、地元メディアもホルムズガーン州のバンドル・レンゲやバンドル・コンの被爆を伝えた。

## 外務省声明

イラン外務省は、米国の攻撃を国際法と停戦覚書の両方に違反するとして、強く非難した。外務省は「テロリスト米軍による、わが国南岸の複数の監視・観測施設への空爆は、国連憲章第2条4項の明白な違反であり、かつ『戦争終結に関する覚書』第1条の明白な違反である」と述べた。外務省声明は、この攻撃は、米国政府が自らの約束を「何らの価値も信頼もしていない」ことを示していると主張した。外務省は、国連憲章第51条に基づき自国の主権と領土の保全を守る決意を改めて表明し、国際平和と安全の維持に対する国連安保理の責任を喚起した。

## 長期的軍事的適応

\*これとは別個に、イラン軍の報道官モハンマド・アクラミ・ニア准将は、イラン軍が彼が「40日間戦争」と呼ぶ期間中に、軍事能力を大幅に強化したと述べた。彼は、紛争前から研究し、新型ドローンを導入し紛争中に実戦に配備したと言った。また、戦争中に改良型ミサイル・システムを開発・配備したことに言及し、イランは敵対行為が続く中でも軍事能力を拡大したと付言した<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 結局、イランと米国は数日間の軍事対立の後再び外交へ戻り、ドーハで実務者会議を始めることで合意した。